



【事例 2】 野田市 : 関宿水環境保全会

1. 組織の概要

協定締結年度	協定面積 (ha)	構成員	集落数
平成19年度	204. 4ha (田: 170. 54ha、畑: 33. 83ha)	農業者418名、 24団体、4個人	15

2. 地区の概要

本地域は、千葉県最北端に位置し、利根川と江戸川に挟まれた兼業農家の多い米作地帯です。江戸時代には利根川水運の要衝として発展し、歴史のある町並みが残っている地域です。関宿城博物館からは利根川と江戸川の分水点が展望でき、多くの人々が訪れる観光スポットになっています。



集落のほ場の様子

3. 合意形成の経緯と組織の運営

この対策で行う共同活動は、元々、集落で行っていたことであり、農家や非農家も家庭雑排水を地区内の排水路に流しているため、排水路の水質悪化については集落の問題として皆が共有しており、スムーズに活動組織が立ち上がりました。

非農家の住民にも積極的に活動に参加してもらうために、年間のスケジュールを前年度のうちに作成し、共同活動の日時は総会時に全て決定しています。

スケジュールは15の自治会長から回覧で周知を図っており、現在では構成員の90% (約700名) 近くの参加が得られています。

4. 特徴的な活動について

(1) 水質の浄化活動

集落排水路の水質悪化が進んでいるため、対策開始前から水質浄化に取り組む会 (たんぼぼの会) が立ち上がり、EM 団子を作って投入しています。

投入前のデータが無く、見た目も変わらないことから、効果を数字で示すことは難しいですが、悪臭は減っています。また、釣り人からはタナゴを見かけたとの報告もあり、水質浄化に期待が持てそうなことから、今後も継続していくことを考えています。



排水路



EM 団子を作る組織の皆さん

(2) 学校教育との連携

関宿小学校の裏手にある耕作放棄地を借り受け、一部を農業体験ほ場として復田し、子どもたちに農業の大切さを教えるとともに、ビオトープ（5a規模を3つ）を造成し、生きもの調査等も実施しています。



ビオトープ その1



その2



水は井戸からくみ上げ、3つのビオトープへ順々に流れこむよう、工夫しています。



表彰を受けた子どもたち

また、対策の啓発活動として、関宿小学校の子どもたちを対象に農村・環境を守るポスターコンクールを実施し、毎年度表彰式を行うなど、学校教育との連携に特に力を入れています。

(3) 互助転作組合

組合では、水田転作の一環としてひまわりを約9ha植栽し、景観美化活動を行っています。7月には地域住民との交流を深めるため、ひまわり祭りを開催し、共同活動への理解を進めています。

ひまわり畑



(4) 共同活動への参加を高めるための工夫

まとまりの良い地域とはいえ、今まで農家の行ってきた草刈、道普請^{*}などの協力を得ることは難しいと考え、最初はゴミ拾いからお手伝いをお願いしました。現在では理解も進み、積極的に関わってくれるようになってきています。（※道路の補修のこと）

5. 今後の活動について(体制整備構想の概要など)

昭和40年代から兼業農業地帯として稲作経営が続いていますが、農業機械の高額化、生産物価格の低迷などから、稲作についての熱意が薄れていくことが懸念されています。

しかし、世帯主の平均年齢は62歳、後継者も35歳と比較的若いこともあって、将来に期待が持てる数字でもあります。

農業の衰退は当地区の衰退に直結すると考え、今後もこれまでの活動をさらに展開し、継続することで集落を守ろうとする意思は固く、集落の今後について注目して行きたいと考えています。

